日本科学者会議

京都支部ニュース

2月号　No.348

2013 年 2 月 13 日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町 95-3　南館 3 階
Tel/Fax：075-256-3132
E-mail：kyoto_kagakusha_3@yahoogroups.jp
URL：http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/
ゆうちょ銀行振替口座　加入者名：日本科学者会議京都支部　　口座番号：01050-6-18166

目　次

■ 原発ゼロをめざす日本科学者会議討論集会　第2回実行委員会の報告 …… 2
■ 脱原発研究会が発足 …… 2
●『日本の科学者』読書会 1 月例会報告 「国際原子力ムラ －その虚像と実像－」 …… 3
● 第 2 回社会体制研究会報告 「マネジメントと新社会体制 ― マルクスとドラッカー」 …… 5
● 関西技術者研究者懇談会 2 月例会報告―ソラダス測定をめぐって― …… 5

【投稿】 核兵器と核発電所　NO　NUKESだ　須田　稔 …… 6
【投稿】 住民参加のまちづくり（3）－東大路通り整備問題－　藤本文朗 …… 7

◆ 支部幹事会だより …… 10

■ 読書会・研究会などの案内■ …… 10
・『日本の科学者』読書会 2 月例会（2/22）「グローバル危機の波及と経済政策」
・第 2 回脱原発研究会（3/ 1）
・関西技術者研究者懇談会 3 月例会（3/ 3）「水車の歴史」
・原発ゼロをめざす日本科学者会議討論集会 第3回実行委員会（3/11）
・原発ゼロをめざす日本科学者会議 討論集会（3/22）

■ JSA 近畿地区の催し物案内：「JSA 近畿 No. 52.21」…… 12

原発ゼロをめざす日本科学者会議討論集会
第２回実行委員会の報告

表記委員会が、2 月 2 日（土）14：00～17：30、京都支部事務所で開催された．大阪支部から今岡良子さん、滋賀支部から小島彬さんと畑明郎さん、京都支部から富田道男さん、細川孝さん、および宗川が出席.

・応募結果と演題の採択について

応募人数は16名、うち1名は非会員であった．非会員の応募は採択しないことにした．採択された15名の応募のうち、3名がそれぞれ2演題を応募したので、応募演題数は18であった．応募演題のすべてを採択することにした.

・プログラムの編成、当日の運営、抄録集、宣伝について

18演題のうち4演題は紙上発表、14演題は口頭発表を希望していたので、14演題すべてを口頭発表にし、プログラムを編成した．当日の運営について具体的手順、抄録作成、チラシの作成などについて話し合った.　（文責　宗川吉汪）

※　この集会の呼びかけビラをこの支部ニュースとともにお届けします.
ふるってご参加下さい.

脱原発研究会が発足

第 1 回研究会が 1 月 25 日（金）13：30～14：00、支部事務所で開催された．出席者は、亀井、日下、末満、菅原、須田、富田、湯山（敬称略）、宗川の 8 名.

まず、脱原発研究会の発足ならびに「原発ゼロをめざす JSA 討論集会」について宗川が説明した．その後、参加者から脱原発への思いが語られた．以下発言から.

「原発ゼロを国民運動にするにはどうしたらいいか．人権意識が問題.」

「NHK が放映した低線量被曝については原子力ムラが猛反発した．チェルノブイリを報告した『低線量汚染地帯からの報告』（馬場・竹内、NHK 出版）から衝撃を受けた.」

「日本の最先端と思われる技術を駆使して設計施工、綿密な工程チェックと品質管理がなされて出来上がったものでも完全な安全、安心はない.」

「3・11まで安全神話を信じていた.」

「城陽で原発ゼロに向けた市民運動に携わっている．昨年の 11・11 関電支店前行動では雨の中 80 人で参加した.」

「『バイバイ原発 3・9 きょうと』が 3 月 9 日（土）円山公園・野外音楽堂で開催される．昨年を上回る参加を目指している.」　（文責：宗川吉汪）

『日本の科学者』読書会 1月例会報告
―国際原子力ムラ ―その虚像と実像― をめぐって―　個人懇・清水民子

1月 18 日 15 時 30 分より支部事務所にて催され，7名が参加した．

1 月号特集の「国際原子力ムラ―その虚像と実像―」より 4 篇を取り上げ，紹介・論評した．3 篇は海外の執筆者，1 篇が国内研究者によるものであった．海外からの論稿に関しては，論文としてのスタイル，論調（センセーショナルな傾向），翻訳の適切さ（専門用語の訳し方に未習熟）などへの疑問が呈された．以下，掲載順に要旨を記す．

イブ・ルノワール『国際原子力ムラ―その成立の歴史と放射線防護の実態（担当：菅原建二氏）

レントゲンによる X 線の発見から 30 年を経て，放射線取扱者の疾病が認識され，放射線防護の国際組織がつくられた（1928 年）．1950 年, 既存の組織を結集して国際放射線防護委員会（ICRP）が結成され，彼らが地球上唯一の放射線防護アドバイザーであると自認し，あらゆる分野の活動に介入するようになったのが国際原子力ムラの始まりである．

広島・長崎の残留放射線による被害を無視, 外部被曝と内部被曝の違いを考慮しない線量 - 反応関係にもとづく放射線防護の勧告をおこない，廃棄物許可や被曝労働条件をめぐる法律が定められた．スリーマイル島，チェルノブイリ，福島の危機に際しても，健康被害はこの勧告により「予言」できるとした．18 頁に掲載の図 1 には「放射線防護の教義ができるまで」として国際機関とその役職者の人名を記して,「一部の責任者が複数の機関に所属し，永続的に要職についている」（原子力マフィア）ことを示し，彼らが標榜する「真実」にはいかなる科学的反論も手が届かないという. 結論は（日本では）「チェルノブイリが今，繰り返されている」ということである．

ウラディミール・チェルトコフ『チェルノブイリの犯罪―フクシマにとっての一つのモデル』（担当：富田道男氏）

チェルノブイリを現地調査した放送記者の取材報告であり，国際機関による巧妙な手口の犯罪性を告発している．チェルノブイリ事故の後，国際的な原子力ロビーと公的医学界は過去 26 年間、数百万の人間をモルモットにして新たな疾患の実験を行ってきた．国連安保理指揮下にある IAEA は WHO とつるんで，広島・長崎原爆被爆より低線量なのでチェルノブイリでの病状は事故によるとは判断できないとし，認定できる被害は事故処理作業員 50 人の死亡と約 9000 人が 2056 年までに癌になることのみとした．解剖学者パンダジェフスキー教授は低線量で体内に取り込まれた放射線核種と臓器（心臓）破壊との因果関係を証明したが逮捕され，8 年の刑を受けた．ネステレンコ教授は汚染減少のための食事法を提唱したが妨害された．エートス（CEPN の政策により仏電力会社と仏原子力庁による 1976 年創設の NGO）のプロジェクトはネステレンコの指導のもとに食品の放射能測定等をおこない，彼のデータをもひき

ついだが，健康問題を除外するという任務規約によって正しく活かされることはなかった．CORE（汚染地域の生活条件回復のための援助政策）も放射線吸着剤投与のための経済援助を拒否するなど批判されるべきである．(報告者感想:記述が分散的.無意味な修飾語句.記述内容の重複．翻訳の問題.)

アリソン・ロザモンド・カッツ『　チェルノブイリの健康被害―国際原子力ムラの似非科学 vs 独立系科学』（担当：清水民子）

原子力と核の大国―西欧世界のリーダーたちは世界中の人びとから，非常に重要な科学的情報源を奪ってきた．それに対して独立系科学者と健康と環境の活動家の勇敢な努力が『チェルノブイリ―大惨事が人びとと環境におよぼした影響』(ニューヨーク科学アカデミー，2010．翻訳が岩波書店より出版される予定）の刊行を可能にした．(隠蔽の）陰謀に加担してきたのは，各国政府・国際国内の機関・学術研究機関，そして国連のシステムすべてである．IAEAなどの似非科学を国連内では従属的地位のWHOが再生し，拡散してきた.「チェルノブイリ・フォーラム」の『チェルノブイリの遺産』(フォーラム最終報告書，2005年）は，メンタルな健康被害―生活習慣や自己否定的感情を重視する．一方，ニューヨーク科学アカデミー刊行の報告では，参考資料800，科学論文5000篇を引用して，あらゆる種類のがんの有意な増加，子どもの健康状態の悪化（被害親から事故後に生まれた子どもを含む）を報告している．市民が管理する独立系科学の組織と研究所の設立という長期間にわたる努力が必要である．

松崎道幸『がんリスクは10ミリシーベルトでも有意に増加』（担当：宗川吉汪氏）

文科省は1990年から原発労働者の疫学調査を行っているが，その第Ⅳ期報告書が2010年3月に公表された．20万人（男性，平均54歳，平均年間累計線量13.3mSv）が対象になっている．公表データから著者は，13.3mSvの被ばくでがんによる死亡が4%有意に増加したと見るのが妥当であると結論した．原発労働者に有意に多く発生している肝がん死，肺がん死について，政府は飲酒習慣，喫煙習慣など生活習慣等による影響の可能性を否定できないなどといっている．その検証のために原発労働者の飲酒率（交絡因子調査）と一般国民の飲酒率（国民栄養調査）を比較し，前者が高いという表1を提示している．ところが，両調査の飲酒率の定義が異なっており，原発調査では月1回以上飲む者，国民栄養調査では週3回以上飲む者を飲酒者と定義している．著者の試算の結果，原発労働者の肝がん死は一般国民より13%増，最大被曝群（100mSv超）では30%増加しているという結果となる．肺がん死についても，原発労働者に多い主要な理由を，試算の結果，飲酒習慣の違いで説明することはできないと結論づけている．福島については「速やかな避難，疎開の必要性を真剣に考慮すべき時」としめくくっている．(報告者補足:「標準化死亡比」，「p値」，「交絡因子」について説明，コメント.)

第２回 社会体制研究会報告
マネジメントと新社会体制 ― マルクスとドラッカー―
2013 年 2 月 9 日の報告

表記研究会が 2013 年２月 9 日（土）14：00～17：00、京都市東山いきいき市民活動センターで開催された．重本直利さん（龍谷大学　経営学部教授）が「マネジメントと新社会体制 ― マルクスとドラッカー」と題して報告された．藤原隆信さん（京都経済短期大学経営情報学科准教授）が司会した．参加者 14 名．当日配布されたレジュメの抜粋をもって報告にかえる．

はじめに

『もしマルクスがドラッカーを読んだら資本主義をどうマネジメントするだろう』（かもがわ出版、2012 年 12 月）の要点および制度経営学から社会経営学（政治経営学）へ．

要点（抜粋）

・マルクス＋ドラッカー＝資本主義の「根本治療」と社会主義への具体化の論理．

・（旧）社会主義論からでなく制度派経営学（マネジメント論）からのアプローチ．

・マルクス（社会主義）のオプティミズムの具体化．ヴェーバー（個人主義）のペシミズム（「官僚化」「鉄の檻」「隷従の檻」「社会主義批判」）からの脱却のためのマネジメントの具体化．

・社会マネジメント＝企業、地域、行政、教育、福祉等々のマネジメントのトータリティとして捉える．

・資本主義社会（「利益・利潤」がすべてに優先する社会）をマネジメントする方法が社会経営学．

・社会経営学とは、経済競争的関係性（構造性）およびそのマネジメント手法（機能性）が具体的に機能する資本主義から、互いに協力し助け合う社会共生的関係性（構造性）およびそのマネジメント手法（機能性）への転換の学．

・社会経営学＝資本主義を「治療」する経営学．「延命治療」でなく「根本治療」の場合、政治経営学になる．

・マルクスの「人間の意識的計画的な制御」＝資本主義のマネジメント

・「人びととともにある権力」（フォレット）、「自己管理」（ドラッカー）が「人間の意識的計画的な制御」のキーワード．制度経営学から社会経営学（政治経営学）へ．

おわりに

「新」社会主義論のために、「日本の市民マネジメント」「東アジア共同体構想」を展望．　（文責　宗川吉汪）

関西技術者研究者懇談会　２月例会報告
―ソラダス測定をめぐって―

去る 2013 年 2 月 3 日（日）14 時～17 時に JSAO 事務所で 2 月例会が開催された．参加者は 5 名．その報告と討論の要旨は以下のとおりである．

報告：ソラダス測定

報告者：久志本 俊弘　氏

大阪府民が自主的に参加して行われている「第７回ＮＯ２簡易測定運動」の調査報告書が出た．これは大阪から公害をなくす会を中心とした実行委員会方式で、昨年５月 17 日（木）から 18 日（金）にかけて実施されたものである．1978 年以来 34 年間続いている市民運動で､388 の団体と参加人数 4384 人、設置カプセル数 9468 個を用いて大阪府をメッシュ測定している．（メッシュ測定では約１平方キロメートルに 5 個のカプセルを設置）．

今回も山岳会の協力を得て大阪府下の山頂もカプセルを設置し測定された．また健康アンケート調査も実施し 4444 名の回答があった．微小粒子状物質ＰＭ2.5 の測定も一部であるが並行して行われた．

今回の調査で分かったことは大阪市域を頂点に相変わらず大気汚染が続いている．特に湾岸地域では幹線道路沿線やフェリー港やコンテナふ頭などの船舶交通と大型トラックからの排ガスの影響が大きいと思われる．そしてこの汚れた空気が西風に乗って生駒山などの山脈に運ばれていることが判明した．健康調査の結果では汚染の高い道路沿道と健康影響との相関関係が得られた．

討論

・この測定は天谷式カプセルの簡易測定法で行われている．
・測定値は気象条件に左右されやすい．
・日曜日は交通量が少ないため空気の汚染が少ない．

2013 年２月５日記す（文責　山口進次）

【投稿】　核兵器と核発電所　ＮＯ　ＮＵＫＥＳだ

2013.1.27　須田　稔

原子爆弾（原爆）・原水爆・核兵器・核実験・原子力発電所（原発）・原子力潜水艦（原潜）．英語ではＮＵＣＬＥＡＲ、日本語で「核」と「原子力」．核兵器廃絶を求めながら、なぜ原発を許容してきたのか.「平和利用」と「安全」の垂れ流し宣伝に洗脳されたのか.

原発立地自治体の住民の間に､「いがみあい」「あつれき」「意見の対立」、つまり「地域の人間関係をズタズタに破壊する」状況が深化するのではないか、1 月 23 日付『毎日新聞』朝刊「異論　反論」に雨宮処凛さんが不安を吐露している.

雨宮処凛さん、人間らしい爽やかな連帯に代えて陰湿で醜悪な排斥を醸成するもの、それはカネの魔力ですよね.

危険が今生きるわれわれだけでなく、将来の幾世代の人びとをも脅かす、生命とは共存できないしろもので、廃炉にするにも途方もなく莫大な経費が必要で社会福祉や社会保障などは雲散霧消しかねないしろもの．そういう核発電所の「新増設」を容認し、30 年代に原発ゼロ方針を見直し、加えて上関原発建設計画の凍結方針を白紙にして再検討する、この安倍内閣の原発政策を「苦々しいとしか言いようのない展開」と

書く雨宮さん．あなたに共感する人は日本の、そして世界の多数派ですよ．

核発電所を推奨する人、核武装しよう、核兵器廃絶に反対しよう、などと唱える人は、人道に対する犯罪者です．とどのつまり、いのちよりオカネが大事という人、我利我利亡者は犯罪者だとわたしは思います．あなたもわたしも彼らの共犯者にはなるまいと決意を固めましょうよ．

21 日『毎日』夕刊の「鳥の目　虫の目」で、大島秀利・編集委員が敦賀市で時計修理工房を営む田代牧夫さんの声を伝えている．スリーマイル島の炉心溶融事故（1979 年）、チェルノブイリ原発暴走事故（1986 年）があっても、原発城下町・敦賀では原発推進者の声は大きかった．チェルノブイリ後に公然と原発の危険性を訴え、放射線測定監視のネットワークを作ると、地域から「異端者」と見られ、客は半分以下になったが、田代夫妻はめげなかった．という実話だ．こういうお人がおられるから、僕は絶望しなくてすんでいるのだ．

21 日付『毎日』「社説」の主題は「不適正除染」で論旨は「被災者への背信行為だ」．

「国が直轄で実施している福島県内の除染事業で、洗浄に使った水を回収せずに側溝へながすなど不適正な事例が確認された」．

「世界的にも前例がない大規模な除染事業」で、「費用も膨大で、環境省が今年度分として発注済みの 4 市町村分で約 340 億円」．東京電力の起こした事故だが、原発推進が国策だから国民の税金で尻ぬぐいをするわけだ．「たいした効果は出ていない．税金の無駄遣い」と言った作業員もいるようだし、効果を疑問視し、移住や避難者への支援強化を求める根強い声があることも確かだ、と「社説」．

核発電で嬉しくなる記事は、1 月 15 日付の青野由利・専門編集委員執筆の「科学 3・11 後のサイエンス」．フランス原子力安全機関の前委員長ラコステ氏、米原子力規制委の元委員長メザープ氏、英原子力規制機関長ウェイトマン氏、この 3 人の話を総合すれば、「炉の型はともかく、大事なのは事業者の『安全文化』（と個人の責任・・須田補足）となるだろう．そして、その不備を長年放置し、時としてきた責任は自民党にもある」と青野由利氏．

『毎日』は、原発ゼロ・自然再生エネルギーをと、全社あげてキャンペーンを起こすべし．

【投稿】　住民参加のまちづくり（3）
－東大路通り整備問題－

藤本文朗

１．はじめに

(1)，(2) で述べたように，京都市の行政主導の「東大路通歩行者空間創出推進会議」が進行している．1600 余通のパブリコメントの非科学的分析のうえで，「東山住民の声は 8 割が車線減少をふくめた道路空間の再構成に賛成」ということで，「歩いて楽しい東大路」に向けた市の方向が 8 月にきめら

れた．9 月，清水寺町の 50 人余の住民が 2 回にわたり市に説明を求めたが，了解に至らなかった．そこで住民が自主的に「東大路渋滞対策協議会」（仮）をつくり，住民としての対応について討議してきた．その中で JSA 京都支部の研究者も協力してきた．この住民運動に JSA の研究者としてどう関わるか，私自身悩みつつ，考えていることを述べることとする．

２．科学者（大学の先生）への不信と期待の中で

この東大路通りの問題は，ある住民が私のパートナー（元市会議員）に支援をたのまれ，その縁で障害者・高齢者問題の研究者である私とかかわるようになった．

その住民と私との話し合いの中で，最初に言われたことは，「失礼ですけど，私はこれまで 40 年近く東山の防災などにかかわってきましたが，先生らは市の行政に乗っかって，時には思いつきでものを言われ，住民は惑わされる．行政の委員会では大学の先生といわれると，その先生に反対，異議を言いにくいし，弁が立つ．信用できかねると思っている．」

たしかに，住民からみたら，市の行政にものを言うことは勇気がいる．上記の「東大路通歩行者空間創出推進会議」の委員の 1 人である理工系の大学研究者（東山区の近くに住んでいられる先生）に，私の所属の大学名を言ったこともあり，電話してこられたが、その中で，「京都の住民は蛤御門の変以来，モンクをいわん住民ですね」といわれた．

私自身，パートナーが市会議員をしていた関係で，市のいろいろの諮問委員会のメンバーに求められたことはないが，行政に異議を唱えてしまえば次回から委員をハズサレるのが常識，と聞いている．委員の先生は御用学者，と住民は言っている。すべてが，そうとは，私は思いたくないが。

いわゆる「民主的団体」においても，時として研究者は神棚に上げられる。私自身，現場を知らず，ハシゴをハズされた苦い経験がある。

私の経験でいうと，マスコミはこの問題では賛否両論を載せてくれる（『京都新聞』）．行政の領域内では，議会報告以外「お上にたてつく声は載せない」。JSA 以外の民主的団体もシャンシャンで，民主的討論がたたかわされることなく，総会もシャンシャンである。日本の民主主義の歴史的基盤の弱さを感じるのは私だけであろうか。

３．東大路問題は，諸科学の協力と討論を

上記の「東大路通歩行者空間創出推進会議」の研究者 4 名（議長，副議長を含め）の中には，経済，自治問題，工学関係，住生活学などの専門家がいる。

東大路問題の専門ということでいえば，本来，JSA の集団としての協力がほしいところだ．元 JSA 会員や現会員など 3 名の協力研究者が，求められて，いろいろ行政の資料，道路関係の文献を集めている。

この分野は，現場の状況，人口動態，住民の生活，防災，車両（公共交通，住民の車，消防車，観光で来る市内・市外の車など）の，1 日，1 週間，1 ヵ月，観光シーズ

ンの変化など，住民の暮らしと安全，経済活動をみすえて，建設的政策を具体的に住民の力を基礎としてつくりあげていかなければならない。

私自身は，20年前，福井でJSAのメンバーと「障害者に住みよいまちづくり」の運動をやった経験しかもってない研究者で，素人研究者ともいえよう。しかし，東大路問題を総合的視野で，かつ専門的に取り扱えるのは，JSA の会員のグループしかいないと思う。

工学系のこの分野の専門家は，ヨーロッパの「パーク・アンド・ライド」の視点でみる。日本・京都・東山・東大路の例は，ヨーロッパの例を参考にすべきだが，応用問題のまた応用問題といえる。原発問題に近いともいえよう。

私たち研究者は，地域住民の生の声をまず聞いて，活動の出発点とすべきではなかろうか。以下は，住民 M氏の声である.

――――――・――――――

千数百年の間，先人より脈々と受け継がれてきた東山遺産を，我々が次世代へ引き継ぐのに努力しなければならないが，なんぼ頑張っても70～80年でしかないのです。

「楽しさ」の言葉に浮かれて，舵取り，判断を誤れば先人に申し訳なく，又，孫末代まで恥をかかなくてはならない。この舵取りは，我々住民と同じく，それ以上に行政は間違ってはならない。京都市の説明では市民の要望とのことですが，京都市は，市民の要望であれば善悪関係なく何事でもされるのでしょうか。

京都市には，多数の立派な行政マンが居られるのですから，地域の実態，住民の意識，実情をご理解頂けるものと期待しております。

最後になりましたが，東大路通整備構想には，「地域防災」「災害から文化財を守る」という観点はまったく考査されておりません。

念のため、災害が起きてから行うのは，「減災活動」です。真の防災とは，

故事曰く

・やすきに有りて危うきを思う（居安思危）
・思えばすなわち備えあり（思則有備）
・備えあれば憂いなし（有備無患）

以上，ご理解のほどお願いいたします。」

――――――・――――――

京都市長は「障害者にやさしい路」と言うそうだが，このままでは，障害者を生み出す行政になりかねない。市長に住民の声を届けない行政になっていないか。

しかし，市の行政が，議会のすべての会派が，「東大路通り問題」で了解しているといわれているが，それが今，住民の力で変わりつつある．JSA の会員のご批判をお願いします。

参考文献：藤本文朗『障害児教育の義務制に関する教育臨床的研究』（多賀出版，1996）

（筆者は，東山区住民で，JSA 高齢者障害者権利保障研究委員会代表）

☀☀☀☀☀☀支部幹事会だより☀☀☀☀☀☀

第９回幹事会（年１月 18 日）および第９回事務局会議（2 月 8 日）の報告

1.　新入会員

2 月より以下の方々が入会した.

・福島知子さん、吉備国際大学 講師、専門：社会学

・三宅成恒さん、京都城南診療所 医師

2.　支部現況

会員数 284（一般　254、学生・院生30）、読者 6。なお、8名の会員が2012年度で退会を希望している.

3.　会費納入状況

2012年度会費納入率：79.9%、2012年度会費未納：60名、2011年度未納：7名.

4.　これまでに設置された分会　（　　）内は責任者

京大医学（菅原）、工繊大（前田）、学生研究会（上野恭平）、個人会員懇談会（鈴木）、関西技術者研究者懇談会京都分会（山口）、京大宇治（上野）、社会体制研究会（田中雄三）、脱原発研究会（宗川）、若手研究者（藤本あかね）、京大経済（加賀美）、龍谷（細川）

5.　第47回支部大会に向けての準備

・支部大会が5月19日（日）13：00～17：00に開催される.

（特別講演 13：00～15：00. 大会 15：00～17：00）

・大会に向け議案書の作成を開始した.

4月5日（金）事務局会議で完成予定

4月11日（木）議案書、幹事の立候補案内、委任状を発送

5月11日（土）委任状回収期限

6.　次期方針に関する予備討論

・原発ゼロならびに憲法9条擁護を2大テーマにする.

・「（日本の）科学の民主的発展」、「学術の交流」をキーワードに科学者会議の目的を端的に表現するキャッチフレーズの作成

7.　原発ゼロをめざすJSA討論集会について

3 月 20 日、龍谷大学深草学舎 22 号館にて開催. プログラムが完成した.

多くに会員に参加を呼びかける.

（文責 宗川吉汪）

読書会・研究会の案内（末尾の「JSA 近畿」も参照）

『日本の科学者』読書会　２月例会「グローバル危機の波及と経済政策」

日　時：2 月 22 日（金）15:30～17:30

場　所：JSA 京都支部事務所

テーマ：『日本の科学者』2 月号特集「グローバル危機の波及と経済政策」

高田論文：金融・財政危機と欧州統合の行方（報告 富田道男）
松本論文：経済危機下における日本銀行の金融政策（報告 藤井一）
瀬戸岡論文：経済政策基盤の液状化がはじまったアメリカ（報告 伊藤武夫）
小倉論文：金融危機後のアメリカ金融規制改革（報告 伊藤武夫）

第２回 脱原発研究会

日　時：３月１日（金）　13:30 ～15:30
場　所：京都市東山いきいき市民活動センター 第２会議室
＊原発ゼロをめざす JSA 討論集会に向けたプレトーク

関西技術者研究者懇談会 ３月例会

日　時：３月 ３日(日)　　テーマ：水車の歴史　担当者：北口　久雄 氏
場所：※ ３月の例会はＪＳＡ大阪支部の事務所が使用できないため、下記に変更します.
大阪市中央区内本町２－１－19　内本町松屋ビル 10－370 号，大阪から公害をなくす会事務所　ＴＥＬ06－6949－8120
＊地下鉄堺筋線　堺筋本町下車 12 番出口，
地下鉄谷町線　中央線谷町４丁目下車４番出口（内本町郵便局が１Ｆにあります）

原発ゼロをめざす日本科学者会議討論集会　第3回実行委員会

日　時：３月 11 日(月)　14：00 から
場　所：JSA 京都支部事務所

原発ゼロをめざす日本科学者会議 討論集会

日　時：３月 20 日（水）10:00～16：30　　※ 別紙ビラにてご確認下さい.
場　所：龍谷大学 深草学舎 22号館

支部大会が5月19日(日)に開催されます！

日　時：5月19日（日）13：00～17：00
（特別講演 13：00～15：00．大会 15：00～17：00）
・幹事会では大会に向け議案書の作成に向けた準備作業を開始しました．4月5日(金)の事務局会議において議案書を完成させる予定です.
4月11日（木）議案書、幹事の立候補案内、委任状を発送
5月11日（土）委任状回収期限
・各支部では，今年度の活動のまとめと次期に向けた活動方針，次期役員候補の選出などを進めて下さい.

JSA の関連する近畿地区の催し

◆原発ゼロをめざす JSA 討論集会（近畿地区主催）

テーマ　原発ゼロをめざす科学者運動の課題

日　時　2013 年 3 月 20 日（水・祝日）10：00～16：30

場　所　龍谷大学深草学舎 22 号館 102 教室

（http://www.ryukoku.ac.jp/fukakusa.html の建物）

午前の部

高岡　滋（熊本支部）、矢ヶ崎克馬（沖縄支部）、宗川吉汪（京都支部）、畑　明郎（滋賀支部）、富田道男（京都支部）、小林芳正（京都支部）、中須賀徳行（岐阜支部）、今岡良子（大阪支部）

午後の部

後藤隆雄（兵庫支部）、志岐常正（京都支部）、真鍋能章（京都支部）、増田善信（東京支部）、亀井成美（京都支部）、野口　宏（滋賀支部）、総合討論

○京都支部第 2 回社会体制研究会
日時　2 月 9 日（土）14：00～
場所　東山いきいき市民活動センター
報告　重本直利氏（龍谷大学経営学部長）
「マネージメントと新社会体制 ― マルクスとドラッカー」

○第 57 回 北天満サイエンスカフェ
日時 2 月 16 日（土）14 時～16 時
内容「アフリカ（ガーナとケニア）の文化と暮らし」
話題提供 岡川宏和さん・横田彩子さん（大阪大学）
場所 天五中崎通商店街 Art & Science Café

●兵庫支部市民フォーラム（例会）
「自然エネルギーの可能性を考える」
２月２１日（木）１８：３０
神戸市勤労会館（三宮）３０７会議室
報告 1「日本の利用可能風力エネルギー」
河野仁氏（兵庫県立大環境人間学部）
報告 2「エネルギー問題の社会経済的側面」(仮)
遠州尋美氏（大阪経済大学）
資料代　￥300

○京都支部 読書会 2 月例会
日時　2 月 22 日（金）15:30～17:30
場所　JSA 京都支部事務所
テーマ　『日本の科学者』2 月号特集「グローバル危機の波及と経済政策」
高田論文：金融・財政危機と欧州統合の行方（報告 富田道男）/松本論文：経済危機下における日本銀行の金融政策（報告 藤井一）/瀬戸岡論文：経済政策基盤の液状化がはじまったアメリカ（報告 伊藤武夫）/小倉論文：金融危機後のアメリカ金融規制改革（報告 伊藤武夫）

●滋賀支部　公開講演会
植物工場による福島農業再生の試み
日時　2 月 23 日（土）午後 3 時～5 時
会場　草津市民交流プラザ（小会議室２）
（ＪＲ南草津駅東口、フェリェ南草津５Ｆ）
講師　竹葉　剛（ 元京都府立大学学長）
来聴歓迎・無料

○第 5 回 動物園前サイエンスカフェ
日時 2 月 23 日（土）14 時～16 時
内容「今こそ知りたい 大阪の治水」
話題提供 美馬一浩さん（大阪府河川室）
場所 動物園前 1 番街

○第 58 回 北天満サイエンスカフェ
日時 3 月 23 日（土）14 時～16 時
内容「こども面白サイエンスカフェ１１」
演示・指導　理科の先生の皆さん
場所 天五中崎通商店街 Art & Science Cafe 付近

「JSA 近畿」は原則として毎週発行。会員が個人や小グループで企画する催し案内も掲載します。記事掲載をご希望の方は、各支部事務局までお知らせください。今期の編集は兵庫支部担当です。